

8 観察コース



1 風の松原

風の松原は、はば約1kmのクロマツ林が南北に14km続いている日本一の大きな松林です。生えているクロマツの数は700万本といわれています。

ここにのせている観察コースは陸上競技場のすぐ西側の林で、風の松原の中で一番太い松が生えているところです。動植物もここが一番多く観察できます。松林に入る道路はたくさんありますが、道に迷うことはありません。それは、これらの道を歩いているかぎり、必ず車の通る広い道に出るからです。でも、一人で入ることはやめましょう。

一番せの高い木はクロマツで、それにニセアカシアやヤシャブシなどがまじっています。せの低い木はコマユミ、サンショウ、ムラサキシキブなどです。草はアマドコロ、ミゾソバ、ミズヒキが多く、ウツボグサやオニユリなどさまざまな種類が見られます。

動物では、ほ乳類に出会うことはほとんどありませんが、鳥は春にひとまわりすると15種類くらい観察できます。

2 小友沼

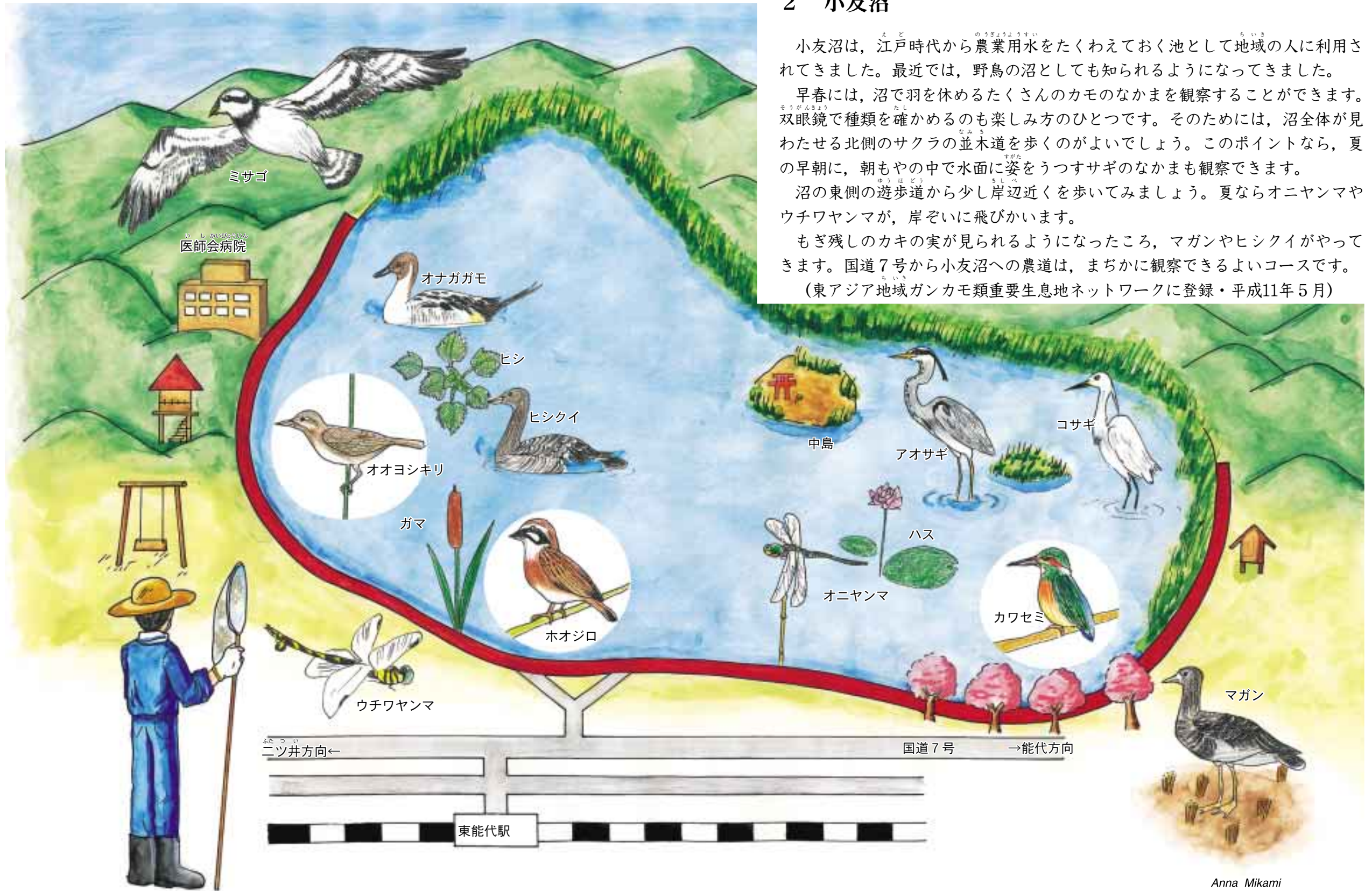
小友沼は、江戸時代から農業用水をたくわえておく池として地域の人に利用されてきました。最近では、野鳥の沼としても知られるようになってきました。

早春には、沼で羽を休めるたくさんのカモのなかまを観察することができます。双眼鏡で種類を確かめるのも楽しみ方のひとつです。そのためには、沼全体が見わたせる北側のサクラの並木道を歩くのがよいでしょう。このポイントなら、夏の早朝に、朝もやの中で水面に姿をうつすサギのなかまも観察できます。

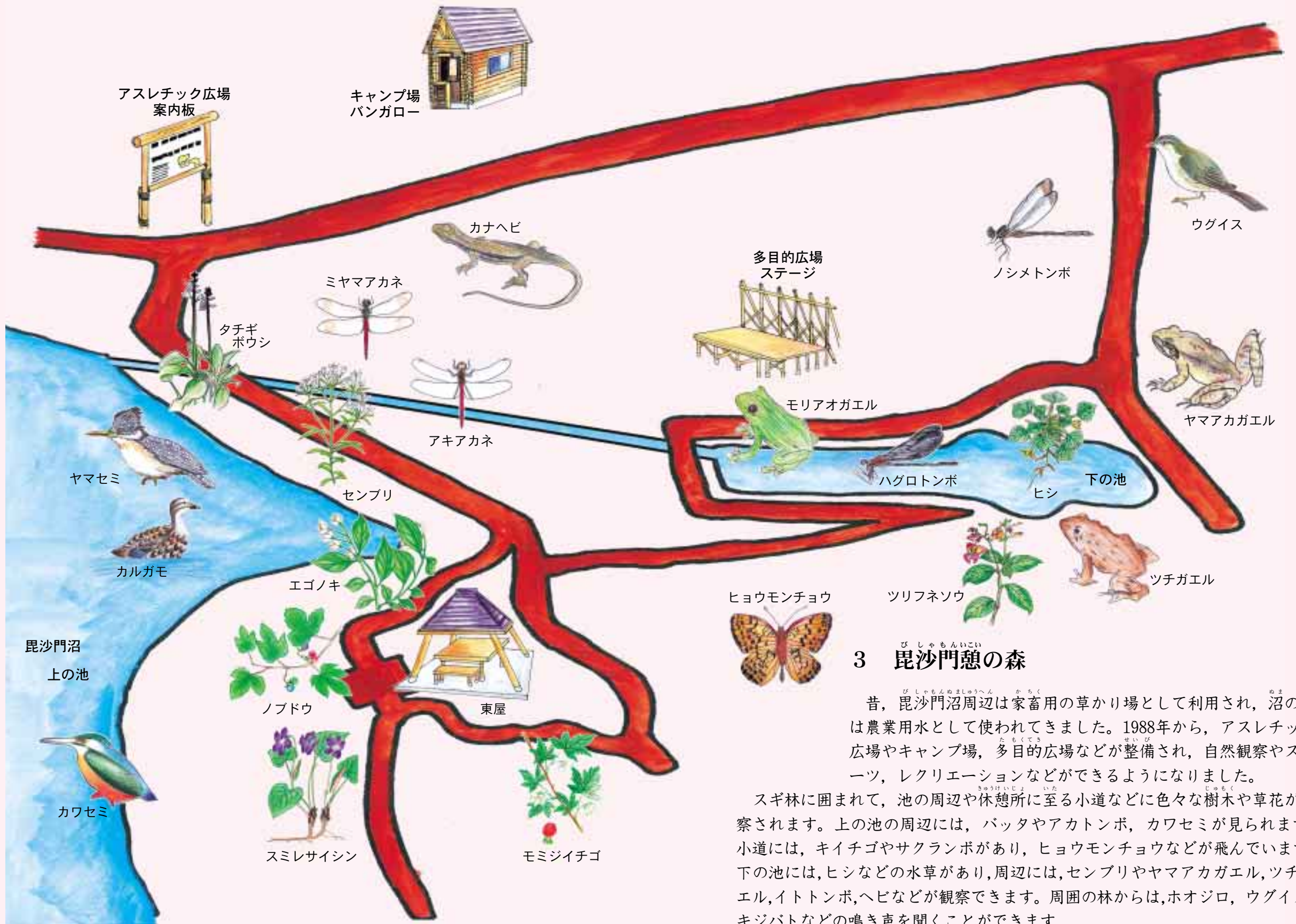
沼の東側の遊歩道から少し岸辺近くを歩いてみましょう。夏ならオニヤンマやウチワヤンマが、岸ぞいに飛びかいます。

もぎ残しのカキの実が見られるようになったころ、マガンやヒシクイがやってきます。国道7号から小友沼への農道は、まちかに観察できるよいコースです。

(東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークに登録・平成11年5月)



Anna Mikami



3 毘沙門憩の森

昔、毘沙門沼周辺は家畜用の草かり場として利用され、沼の水は農業用水として使われてきました。1988年から、アスレチック広場やキャンプ場、多目的広場などが整備され、自然観察やスポーツ、レクリエーションなどができるようになりました。

スギ林に囲まれて、池の周辺や休憩所に至る小道などに色々な樹木や草花が観察されます。上の池の周辺には、バッタやアカトンボ、カワセミが見られます。小道には、キイチゴやサクランボがあり、ヒョウモンチョウなどが飛んでいます。下の池には、ヒシなどの水草があり、周辺には、センブリやヤマアカガエル、ツチガエル、イトトンボ、ヘビなどが観察できます。周囲の林からは、ホオジロ、ウグイス、キジバトなどの鳴き声を聞くことができます。

レクリエーションを兼ねながら、楽しく動植物を観察できるコースです。